

独立行政法人酒類総合研究所

(独) 酒類総研の業務の見直しと組織の在り方

《背景》

- クールジャパンの施策である日本産酒類の輸出促進のため、官民一体となった取組みの強化が必要（「日本再興戦略」平成 25 年 6 月 14 日閣議決定）。
- 日本産酒類の競争力を高めるため、酒類の品質の確保、酒類製造者の技術力の更なる強化が不可欠。
- こうした中、技術力を強化し、國酒としての品質・品格を確保するため、酒類に関するナショナルセンターである酒類総研に対する期待が高まっている。

《業務の見直しの方向性》

- 課税等のための分析・鑑定、その理論的裏付けとなる研究・調査は、業務の柱として引き続き実施。
- その上で、新たな政策課題に対応していく観点から、酒類総研の有する研究・調査、品質評価、技術支援といった各種政策ツールを抜本的に充実・強化し、酒類製造者の技術力の維持強化の支援、酒類の品質確保の支援、酒類の専門知識等の内外への普及・啓発等にしっかり取り組んでいく。
→ その際、官民の役割分担に留意しつつ、受益者には応分の負担をきちんと求めていく。

《組織の在り方》

- 酒類総研の行う業務は、国税庁の課税事務等の行政事務と密接不可分な業務であり、国税庁の任務の遂行に必要不可欠。
- 新たな政策課題に機動的に対応していくためには、柔軟な業務運営が可能であり、民間とも連携が図りやすい独立行政法人の形態が望ましい。

酒類業の健全な発達に資する業務の強化

《酒類製造者の技術力の維持強化の支援》

- クールジャパン推進の観点から、日本産酒類の競争力を高めていくためには、酒類製造者の技術力の更なる強化が必要。
- 他の研究機関等とも連携しながら、原材料や醸造微生物等に係る研究成果等自らが有するノウハウを地方や民間等の醸造現場へ活用していくことを支援。
 - ・ 地域ブランド確立のための地域の特性を生かした酒造りの支援
 - ・ 輸出促進に資する日本酒の長期保存等に対応できる品質保持の研究
 - ・ 研究成果や先端技術の醸造現場への普及事業
 - ・ 製造技術講習は官民の役割分担を踏まえた見直し等を検討

《酒類の品質確保の支援》

- クールジャパン推進の観点から、日本産酒類の競争力を高めていくためには、公的機関による酒類の品質の確保が必要不可欠。
 - ・ 鑑評会は官民の役割分担を踏まえた見直しと輸出促進の観点からの内容の充実を検討
 - ・ 鑑評会のノウハウを活用し品質評価を個別に依頼を受け実施することを検討

《酒類の専門知識等の内外への普及・啓発》

- 日本産酒類の魅力を広め、内外の需要を振興していくためには、日本産酒類の正しい知識の内外への普及・啓発を図っていく必要。
 - ・ 海外の酒類教育機関への協力
 - ・ 国際イベント等への専門家の派遣